小平しんめい幼稚園園庭にて　宮﨑和美さん

宮司として幼稚園園長として地域とともに

小平神明宮宮司・小平しんめい幼稚園園長
宮﨑和美さん

青梅街道沿いにある小平神明宮は今年で御鎮座350年を迎えました。

江戸時代、広漠とした荒野だったこの地を開拓するために移り住んだ人々。その守護神として祀られた小平神明宮は小平の歴史の第一歩を刻む「小川村の開拓」の象徴です。聳え立つような欅や榎の広葉樹が100メートル余り続く参道は、昔と変わらぬ武蔵野の景観を留めています。

境内には小平しんめい幼稚園があり、鎮守の杜にはいつも元気な子どもたちの声がひびいています。

宮﨑和美さん（63歳）はこの由緒ある神社の宮司である上に、幼稚園の園長もつとめ多忙な日々をこなしています。ここで生まれ、育ち、小さい頃から参道の掃除が日課。4人の子どものうちで息子は一人、跡継ぎは必然という環境でした。

「思春期の頃は父の大変さを知っていたせいか、しばられるのが嫌で反抗して親を泣かせていましたね。大学を卒業してから、自分の思いがしっかりしていれば、どんな仕事も生きがいをもってできる。自分なりの神職の道を進もうと決めました」

以来、脈々と継承されてきた小平神明宮の神主として、地域の人々の心の拠り所を担っています。

幼稚園教育への確たる信念

八雲祭、夏越の大祓式、例大祭など、四季を通してのさまざまなお祭や神事、これらを宮司として司るだけでも大変だと思いますが、さらに際限がないけれど、やりがいに満ちた幼稚園の仕事が加わります。

小平しんめい幼稚園は昭和39年創立。現在の園児数は320名、教職員は36名。杜に囲まれた広い園庭には鶏小屋があり、クラスごとにウサギを飼い、カメやカナリア、ハムスターもいます。裏庭にはカブトムシやクワガタも。自然や生命とのふれあいができる恵まれた環境です。

「きれいな服のままお子さんが帰ってきたら、高い保育料払っているのに一体何しているんだろうと心配してください。汚してきたら、あぁ、よくやっているんだと思ってください」と宮﨑園長はお母さん方にいつも言うそうです。登園して挨拶を済ませると自由遊びの時間、園児たちは砂場へ走り、どろんこ遊びが始まります。集団でのあそびを通して、工夫が生まれ、柔軟な思考力や集中力が育っていきます。「禁止をなくし、実体験をさせる。物的、人的、時間的にやりたいことができる環境でありたい。しっかり身体を動かし、五感を育て、自己形成していってほしい。場所が与えられたら、じっとしていられない子にしたいですね」。

他の幼稚園で門戸を閉ざされた、軽い障害や育ちの遅れが気になる子も受けいれた統合教育は「幼稚園教育は子ども同士の育ち合う力を育てていくもの」という園の方針です。

「みんなちがって、みんないい」子どもたちはそれを当り前のこととして受け入れていくのです。「子どもたち同士が育ち合う過程の変化はダイナミック。その中で障害がある子もない子も変わっていくのはすばらしい。大人がやれることは本当に小さいものだと感じさせられます。私自身子どもたちとは、年々平らに付き合えるようになってきていますね」

毎日の神さまへの挨拶や神社の行事体験をすることで、子どもたちは目に見えない神さまが見守っていてくださることを体感して感謝します。

今の社会で忘れ去られた大切なことを子どもから学ばされます。人生で最も重要な幼児期は早期に語学教育などをすることではなく、人としての基礎をつくり、豊かな生活力を身につけていくこと。「時代に迎合せずにこだわっていれば、それを理解し、支持してくださる人がいるものです」決してブレない、強い信念が柔らかな語り口から伝わってきました。